

「いたばし子どもアンケート」の概要

1 調査の目的

国立成育医療研究センターが実施した「コロナ×こどもアンケート」(2021.2)では、15～30%の子どもに中等度以上のうつ症状があったと報告されており、子どものメンタルヘルスの状況について把握すること、区立小中学校における取組みに活かすことを目的として調査を実施した。

また、ヤングケアラーに関する調査研究報告書(三菱UFJリサーチ&コンサルティング,2021)によると、中学2年生でヤングケアラーが5.7%いると報告された。メンタルヘルスの状況に影響があると思われることから、生活背景としてヤングケアラーに関する項目を取り入れた。

- ・板橋区立小中学校のこころの状態の実態把握を行う。
- ・板橋区立小中学校における個別支援体制を検討する。
- ・板橋区立小中学校における課題整理と、関係機関の連携による支援体制の強化に向けた検討を行う。

2 調査の実施方法

(1) 調査対象

板橋区立小学校5年生～6年生および板橋区立中学校1年生～3年生
いずれも特別支援級を含む

(2) 調査対象者数

板橋区立小学校(51校)5年生～6年生(特別支援級104名を含む)7,590人
板橋区立中学校(21校)1年生～3年生(特別支援級134名を含む)8,701人
(小学校は全校、中学校は22校中協力を得られた21校)
合わせて16,291名を対象とした

(3) 調査方法

無記名アンケート調査

(4) 調査時期

令和3年12月

(5) 調査協力機関

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

3 回収状況

各学校のクラスごとに児童・生徒へ配付し、任意である旨を説明したうえで個々に記入・封緘した封筒を回収した。以下に回答数と回答率を記載する。

- ・小学生：5年生 回答数 3,712 名 (97.9%)、6年生 回答数 3,611 名 (97.7%)、
特別支援級 91 名 (87.5%)
- ・中学生：1年生 回答数 2,705 名 (94.5%)、2年生 回答数 2,726 名 (93.9%)、3年生 2,587 名
(92.4%)、特別支援級 65 名 (48.5%)
- ・小中学校合計：15,497 名 (95.1%)

4 調査項目

- ・基本情報：学年、性別
- ・家族の状況：同居者、くらし
- ・ヤングケアラーへの該当の有無：日本ケアラー連盟が作成した 10 項目を参考に、同分類にあたる項目を整理した 6 項目（日本ケアラー連盟に承諾を得て使用）
- ・学校生活の状況：欠席や遅刻、居眠り、忘れ物などの頻度
- ・いじめの有無：周囲および自分について
- ・悩みや困りごとの頻度：家族関係、友達関係、勉強や成績に関する悩み
- ・悩みや困りごとの相談相手：人数

5 調査結果（別添 概要参照）

6 フォローについて

（1）調査時

児童・生徒へプリントを配布。

- ・リラックスワーク（国立成育医療研究センターより提供）のプリント配付
- ・相談先一覧の配付

（2）調査後

①児童・生徒について

- ・重度抑うつ状態あるいは、自傷願望・自傷行為が「半分以上」または「ほぼ毎日」の児童生徒について、教育委員会で学校 ID とクラス ID により把握し、個別対応が必要と判断された児童生徒については、個別に学校へ見守りの強化を依頼した。
また、いずれの学校でも該当する児童生徒がいることが判明したことから、相談先一覧の配付依頼および、精神科学校医による精神保健相談の活用を行った。

②教職員について

- ・調査結果のフィードバックと学校における対応を学ぶ機会として、教職員を中心に相談に関わる教育委員会内職員、子ども家庭支援センター職員を対象に、講演会をオンラインで開催。

内容：講演①「いたばし子どもアンケート」の集計結果から

講師：国立成育医療研究センター社会医学研究部 研究員 半谷まゆみ

講師②「ヤングケアラーとは」

講師：立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 助教 田中悠美子

参加者数：小中学校教職員 60名

※教育委員会および子ども家庭支援センターはアーカイブ視聴自由としたため、参加者数を把握していない。

7 今後の展望

- ・本調査結果について、関係機関へ情報提供を行い、支援体制の強化につなぐ基礎資料とする。